

教科	科目	学年	単位数
美術	美術	2	1
使用教科書		副教材	
美術2・3（光村図書）		美術資料 静岡 Re+（秀学社）	

### 1. 学習目標

- ・対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。
- ・造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
- ・美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

### 2. 評価の観点と方法

- ・以下の観点をもとに、提出物（作品、ワークシート等）、授業態度を総合して評価する。

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。</li> <li>・意図に応じて表現方法を創意工夫し、造形的に表している。</li> </ul>	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	主体的に美術の幅広い創造活動に取り組もうとしている。

### 3. 学習内容 [下表参照]

#### 4. その他[科目の特徴や学習の注意点など]

- ・授業で出題された課題については、技術的な巧拙だけでなく、発想、構想や対話をもとに創意工夫しているか、問題に気付き解決しようと努めているか、などについて評価する。また、授業態度については、自身の制作の進捗状況を常に把握し、他人に迷惑をかけず制作しているか等を評価する。
- ・美術では多くの道具を使用する。中でも彫刻刀やカッターなど、使用方法を誤れば重大な事故につながるものもある。指示通り安全に使用し、次に使う人のことを考えて丁寧に扱う。
- ・美術室は公共の空間であり、様々なクラスが使用するため、絵の具等を使用した後の片づけや清掃は、できる限り皆で協力しながら行う。

	月	単元	授業内容	学習内容及びポイント
学期	4	何が描かれている？	マックス・エルンストの偶然性ともなった技法による作品を鑑賞し、意見交換することでその抽象性を感じ取る。	エルンストの作品は難解なものも多いが、中学生なりの視点で意見交換し、正しい答えではなく感じ取ったことを中心に作品を鑑賞する。
	5	モダンテクニックで抽象画	モダンテクニックの技法を自由に試行し、できたものを任意に切り取って画面にコラージュする。	フロタージュ、デカルコマニー、ドリッピングなど自分の意志で描く場合とは異なる偶然性の美、そのよさを感じ取り、成果物を一つ一つ切り取ることで新しい視点を獲得。
	7		ある程度組み合わせたら、グループで鑑賞し	それを組み合わせるとさらなる偶然性、意外性を生み出し、新しい視点

			<p>あい、意見交換する。</p> <p>それをもとに作品に一つのテーマを見つけ、画用紙に背景を描く。</p> <p>その背景を生かしながら切り抜きをコラージュし、作品を仕上げる。</p> <p>完成作品の鑑賞会を行う。</p>	<p>から自分なりの視点を持つ。</p> <p>周りの意見を聞くことで自分では気づかなかった造形的なよさに気づき、作品に生かす。</p> <p>最終的に作品としてまとめるときは、一つのイメージをもってまとめ上げる。</p> <p>鑑賞会ではほかの生徒の作品の良さ、創意工夫を感じ取る。</p>
二 学 期	8	ピカソ《ゲルニカ》の鑑賞	<p>教科書に掲載されている画像を見ると同時にモニターにも映し、よりリアルに作品を感じられるようにする。</p> <p>作品が描かれた社会的背景を知り、なぜそのような表現になったのか、何を伝えようとしているのかを意見交換を通して考える。</p> <p>考えた成果を、自分なりに色を塗ってみることで示す。</p>	<p>一見難解に思える作品も、部分的に観ていくと、作者が何を伝えようとしているかがみえてくることを体験する。</p> <p>さらにその社会的背景を知ることで、作者の意図が明確になり、作品を残すことの意義を感じ取る。</p> <p>色を塗る作業を通して、作品への理解を深め、自分が感じ取ったことを表現する。</p>
	9	躍動感を伝える	動きを捉えた立体作品を鑑賞し、躍動感をあらわす工夫を話し合う。	タブレット等を用い動きのスケッチをする。いくつかのポーズをスケッチし、その中から作品化するものを選ぶ。
	10		日常生活の中での生き生きとした動きはどんなものがあるか考える。	スケッチを描く際、人体の構造を意識して、頭部、首、肩、背骨、腰等骨組みを描きこむことで全体のバランスをとり、動きを把握し、芯材を作る際の参考にする。
	11		作りたいポーズを決めたら、さまざまな角度からのスケッチし、構想を練る。	平面から立体に捉えなおすため、スケッチには表れない、奥行き、幅があることを理解する。
12	芯材で骨組みを作り、土台に固定し石粉粘土をつけていく。		より躍動感が表現できるように、細部の造形まで作りこむ。	
		造形ができれば全体をやすりがけする。	アクリル絵の具で着色し、完成。	
三 学 期	1	透視図法で背景を描く	レオナルド・ダ・ヴィンチ《最後の晩餐》を鑑賞し、この作品が一点透視図法で描かれていることを理解する。	教科書の画像に重なっているトレーシングペーパーに奥行きの線を描きこむことで奥行きの線が消失点に集まっていることを知り、透視図法を用いて空間を表現できることを理解する。
	2		空間を表現するための、透視図法以外の工夫はないか意見を出し合う。	構図、明暗、彩度等でも空間の表現ができることを知る。
	3		『躍動感を伝える』の作品をもとに、その背景となるような空間を設定し、透視図法を用いて描く。	『躍動感を伝える』の自分の作品はどんな場所での動きなのか考え、その場所を描くことで作品の構想をより深める。
		完成した作品をモニターに映し出し、鑑賞会を行う。	描き終えたら『躍動感を伝える』の作品とともにタブレットで撮影し（それぞれを撮影し合成）一つの作品をして完成させる。	